

利尻島におけるゲンゴロウ *Cybister japonicus* (コウチュウ目: ゲンゴロウ科) の初記録

森井悠太¹⁾・佐藤雅彦²⁾・小川直記³⁾

¹⁾ 〒 980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 東北大学大学院生命科学研究所

²⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

³⁾ 〒 060-8589 札幌市北区北九条西 9 丁目 北海道大学大学院農学院 昆虫体系学研究室

The First Record of the Diving Beetle *Cybister japonicus* (Coleoptera: Dytiscidae) in Rishiri Island, Northern Hokkaido, Japan

Yuta MORII¹⁾, Masahiko SATO²⁾ and Naoki OGAWA³⁾

¹⁾Graduate School of Life Sciences, Tohoku University, Kawauchi 41, Aoba-ku, Sendai, Miyagi, 980-8576 Japan

²⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

³⁾Systematic Entomology, Graduate School of Agriculture, Hokkaido University,

Kita-9-Jo, Nishi-9-Chome, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-8589 Japan

Abstract. The diving beetle *Cybister japonicus* (Coleoptera: Dytiscidae) was collected on Rishiri Island, northern Hokkaido, Japan. This is the first record of the diving beetle *Cybister japonicus* from Rishiri Island.

Keywords: Dytiscidae, first record, Rishiri Island

はじめに

ゲンゴロウ *Cybister japonicus* Sharp, 1873 (ナミゲンゴロウ, タダゲンゴロウ, オオゲンゴロウ) は, ゲンゴロウ科 Dytiscidae に含まれる本科最大級の種であり, 体長は 34 ~ 42mm ほどにもなる (森・北山, 2002). 日本全土に分布しており, 古くから非常に人と馴染みの深い水生昆虫の一種であったが (栗本, 1811), 近年はその数を急激に減らしており, 2012 年に環境省より公開されたレッドデータブックでは, それ以前の“準絶滅危惧種 (Near threatened, NT)” から“絶滅危惧 II 類 (Vulnerable, VU)” に格上げされるまでになっている (環境省自然環境局野生生物課, 2012). また, 北海道の発行する北海道レッドデータブックにおい

ても“希少種 (Rare, R)”として扱われているなど, 日本各地で保全が求められている (北海道庁環境保全課, 2001). なお, 北海道レッドデータブックにおける“希少種 (R)”は, 環境省レッドデータブックにおける“準絶滅危惧種 (NT)”に相当する.

利尻島では, 過去にもゲンゴロウ類の調査が行われており, これまで 10 種のゲンゴロウ科のゲンゴロウ類が採集されているが, ゲンゴロウが発見された記録はない (図 1; 松井, 1994; 環境省自然環境局生物多様性センター, 2002).

発見の経緯, および考察

筆者である森井と佐藤は, 利尻島南部の湖沼にて淡水産貝類相の調査を 2014 年 6 月 28 日に実施し

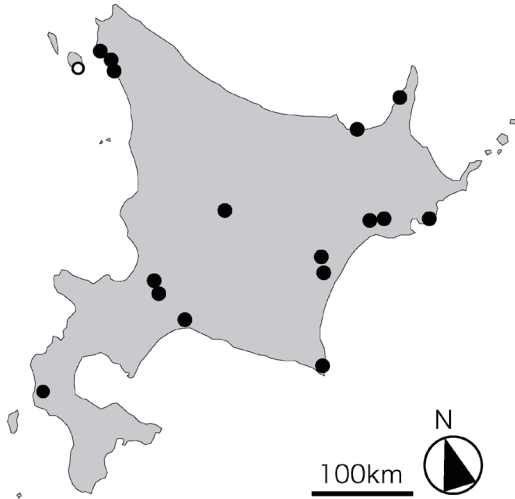


図1. 北海道内におけるゲンゴロウの分布。黒丸，主な既知の産地（鉦路昆虫同好会，1986；大川，2000，2003；環境省自然環境局生物多様性センター，2002；齋藤，2013；保田，2014）；白丸，本研究での新産地。

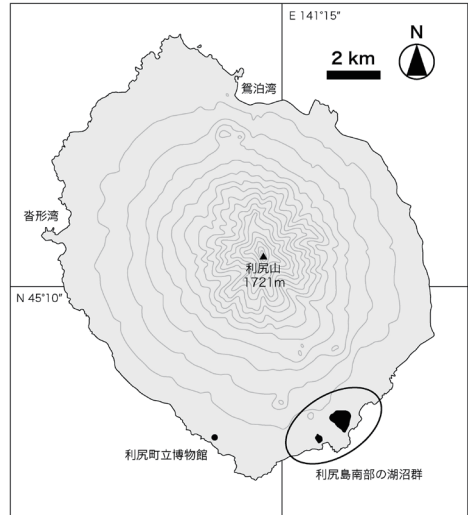


図2. ゲンゴロウの採集地（利尻島南部の湖沼群）。

た。その際、沼の堆積物から破損や退色がほとんど見られない、比較的新鮮な大型ゲンゴロウ類の左上翅1枚が見いだされた（図3-C）。引き続き付近を

探索したところ、岸边付近の枯死したイネ科類などの間を泳ぐ大型ゲンゴロウ類1個体を確認し、採集した（図3-A, B）。本個体は、腹面の黒色と黄

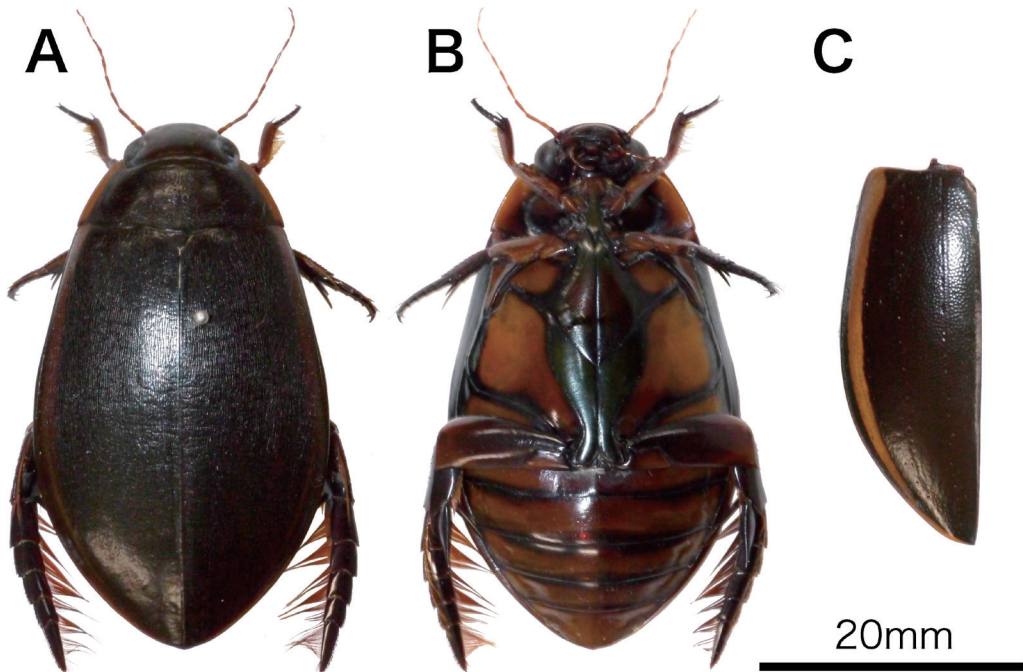


図3. 採集されたゲンゴロウ（雌）；A, 背面；B, 腹面. C. 水中の堆積物中から発見されたゲンゴロウ（雄）の上翅。

色の色彩パターンがゲンゴロウのそれと一致していたほか (図 3B; 森・北山, 2002), 上翅のみの個体とともに, 上翅側面の黄色の縁取りが肩部を除き側縁に達しないこと, 翅の後端に向かって徐々に細くなることから, これら発見された大型ゲンゴロウ類 2 個体はいずれもゲンゴロウと同定された (図 3-A, C; 森・北山, 2002). ゲンゴロウの雌では上翅にしわ (縮刻) が現れることから, 生きてまま採集された個体は雌, 上翅のみ発見された個体は雄であると判断した (森・北山, 2002).

同産地において, 複数の個体が発見されたことから, 利尻島内にゲンゴロウが生息している可能性は高い. 一方で, ゲンゴロウは, 日本だけでなく, 朝鮮半島, 台湾, 中国, シベリアなどにも広く分布しており (森・北山, 2002), 高い移動能力を持つことが予想される. 利尻島の対岸にあたるサロベツ原野においてもゲンゴロウが生息することが確認されていることから (図 1; 環境省自然環境局生物多様性センター, 2002), 今回採集された個体は, サロベツ原野からの飛来個体である可能性もあり, 利尻島に本種が定着しているのかどうかを現時点で判断することはできない. さらなる調査が必要である.

謝辞

論文の執筆にあたり, 神戸崇博士 (北海道大学農学部), 小松貴博士 (九州大学熱帯農学研究センター) にご助力をいただいた. この場を借りて, 厚く御礼申し上げる. なお本研究は, 平成 26 年度利尻島調査研究事業の助成を受けて行われた.

引用文献

- 環境省自然環境局生物多様性センター, 2002. 生物多様性調査 - 動物分布調査・昆虫 (甲虫) 類報告書. 山梨. 462pp.
- 環境省自然環境局野生生物課, 2012. レッドデータブック. [Available at http://www.biodic.go.jp/rdb/rdb_f.html].
- 釧路昆虫同好会, 1986. 霧多布湿原昆虫類調査報告. *Sylvicola*, (18): 1-20.
- 栗本丹洲, 1811. 栗氏千虫譜 (第四冊). 24pp.
- 北海道庁環境生活部, 2001. 北海道の希少野生生物・北海道レッドデータブック. [Available at <http://rdb.hokkaido-ies.go.jp/>].
- 松井英司, 1994. 北海道利尻島の水生甲虫類. 利尻研究, (13): 7-8.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版・図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版. 東京. 231pp.
- 齋藤和範, 2013. 北海道下川町のダム湖に沈むサンプル川と, 札幌東区の無農薬水田で採集されたゲンゴロウ類およびガムシ類. 陸水生物学報, (28): 33-36.
- 山川雄大, 2000. 北海道池田町から記録されたゲンゴロウ類. *Sylvicola*, (18): 19-26.
- 山川雄大, 2003. 北海道えりも町におけるオオゲンゴロウの記録. *Sylvicola*, (21): 93.
- 保田信紀, 2014. 大雪山昆虫誌. 北海道自然史研究会. 札幌. 513pp.